

乾坤四十六

造幣寮

明治六年
四月七日

第一類
二十七册
十八架
一二兩

大藏省考課狀

單

国立公文書館

分庫

其書目録

2 A

35-4

記 1120

1120

1120

造幣寮考課狀第三號目次

明治六年八月ヨリ
同七年七月ニ至ル

第一條 寮中職人徴兵免役

第二條 燒金銀貨幣交換

第三條 賞牌切牌雜形製作

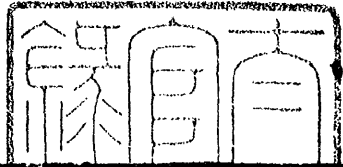
第四條 質貳分判交換

第五條 金銀地金買入規則廢止

第六條 首長キントル賞賜

第七條 首長キントル自用品無稅通関

第八條 等外附屬等級廢止及改唱



考課狀

大蔵省

第九條 供試貨幣ノ試験分析

第十條 溝渠

第十一條 出納寮出張所地面

第十二條 證券交換

第十三條 貿易銀

第十四條 銀地金收入

第十五條 金含銀

第十六條 國債寮ニ造幣事務課ヲ置ク理由

第十七條 煤氣燈

第十八條 毎年閉寮

第十九條 計筭報告表改正

第二十條 常額金

第二十一條 分析所硫酸局ノ諸經費計筭

第二十二條 銅貨テンドル變革

第二十三條 廢貨幣

第二十四條 舊銅貨分析費用

第二十五條 舊貨幣價格表

第二十六條 聖上御寫真

第二十七條 鑄造貨幣種類

第二十八條 大阪東洋銀行家屋

習藝水泡ニ歸シ特リ政府ノ損害而已ナラス目
 下當寮ノ事業ニ多少ノ障礙ヲ起スヤ必セリ由
 テ徵兵令第三章常備兵免役概則ニ據リ免役ア
 ランコト云云爾來本省允可ノ命ナシト雖本年
 ノ如キモ亦右ノ趣旨ヲ述ヘ大阪府ニ照會シテ
 檢査セサリシ者アリ右免役ヲ稟請スル所ノ職
 エハ左ノ各所ニ使役スル者ニシテ寮中最緊要
 ノ地タリ此他小使掃除人及臨時傭人ノ類ハ例
 外ナリトス
 機械場 金銀銅貨鑄造ノ所

製作所 諸器械ヲ製造シ又ハ
修繕ヲ加フル所
 精製所 金銀ヲ精製分析スル所
 硫酸製造局
 以上

第二條

燒金銀貨幣交換

客年八月第一國立銀行ヨリ燒金銀貨幣交換ノ
 所置ヲ稟請スルヲ以本省之ヲ下問ス乃千當寮
 ノ所見ヲ具狀シ因テ左ノ如ク決議アリタリト云
 本位金貨ハ造幣規則第十二條ニ照シ千分ノ五
 ノ手数料ヲ収入シ其貨幣現量ノ價ヲ銀行ヨリ
 所持人ニ付與シ代リ金ハ其時々準備金ヨリ受
 付ヲ乞フヘシ然レモ燒爛甚シク形容ヲ失シ或
 ハ磨損シテ真贋ヲ辨知ス可カラサルカ如キハ

一般ノ地金ト見做スヘシ

貿易一回銀モ本位金貨ト同例タリ但手数料ハ

千分ノ拾トス

補助銀貨第二考課狀ハ個數ヲ以交換シ量目ニ

關スルヲ十ク且手数料ヲ要マルヲナシ

準備金縣ニテハ銀行ヨリ納ムル所ノ燒金銀貨

幣ヲ貯藏シ金ハ百五拾分銀ハ貳十分ニ滿ルノ

日之ヲ本寮ニ輸送シ改鑄ヲ乞フ可ク當寮ニテ

ハ金ハ千分ノ五銀ハ千分ノ拾ノ手数料ヲ収入

シテ改鑄貨幣ヲ交付ス可キ順序タリトス

第三條

賞牌切牌雛形製作

昨六年七月正院ヨリ賞牌切牌ノ雛形造幣寮於

テ製作ヲ命セラレ御用掛大給三等議官出張ス

可キトノ丁本省ヨリ指令アリシカ於今議官ノ

出張ナシト云

價ヲ當人ニ付與スル事トス又當寮ニテハ上又
ノ地金ヲ精製シ貨幣ト為シ準備金工償還スル
ノ順序タリ

第五條

金銀地金買入規則廢止

造幣頭工委任アリシ金銀買入規則ハ辛未十月
設立スル所ニシテ造幣頭ニ買入ノ權ヲ付托セ
ラレ古金銀貨或ハ金銀地金ヲ人民ノ請求ニ應
ジ其價ヲ定メ在阪出納寮長官ト詢リ同寮有ル
所ノ通貨ヲ以購入スルノ方法ニシテ爾後準備
金ノ規則設立アリシモ造幣頭亦大阪準備金ノ
兼務ヲ命セララル、ヲ以従前ノ如ク事ヲ行ヒシ
カ癸酉七月陳請シテ造幣頭ノ準備金兼務ヲ免

セラレタリ於是乎金銀買入規則ナル者當察ニ
於テ所用ナキヲ以廢止ノ事ヲ乞ヒ許可アリタ
リ

第六條

首長キンドル賞賜

當察外國首長キンドルハ明治三年庚午來阪以
來察中工業上ノ事務ヲ專任擔保シ翌辛未年六
月開業ヨリ今日工業ノ盛大ニ及フマテ事務多
端ノ際日夜勉勵能ク其順序ヲ追テ之ヲ整頓シ
外國人數名ノ指揮行届キ加之庚午冬當察建築
師ウツトルス出京以後ハ同人ニ代リ職掌外ナル
建築ノ事務ヲモ一切擔當四年間一日ノ如ク終
始政府ノ為ノ盡カセシカ去年休業ニ當リ養病

ノ為ニ桑港ニ渡航セントノ願アリ此時ニ際シ
積年ノ功勳ヲ慰シ特別ノ褒賞アラントテ本省
ニ具状ニ本省之ヲ正院ニ稟請シ同年九月廿日
特旨ヲ以金五千圓ヲ下賜ス其文如左

造幣寮御雇英國人キンドル

造幣寮創建以來多端ノ事務日夜勉勵他ノ外
國人數員ノ指揮行届且建築等職掌外ノ事務
ニ至ル迄擔任シ盛大ノ事業格別ニ盡力功勞
不尠因テ特旨ヲ以テ別紙目錄ノ通下賜候事

第七條

首長キンドル自用品無税通関

六年六月太政官第二百十號ヲ以海関輸出入荷
物取扱條例ノ公布アリシカ其内外國人雇入條
約書中自用品無税通関許可ノ明文無キハ輸出
入凡商品同様收税ス可キノ條アリ然ルニ當寮
ノ首長キンドル條約中免税ノ條無シト雖來航
ノ始ノ元大藏大丞井上馨在阪ニテ照管ノ印紙
其文(造幣寮御雇
キンドル荷物)ヲキントルニ付共ニ税関工モ其
旨ヲ通シ右印紙貼用ノ荷物ハ無税通関セシメ

来レルヲ以同人自用品ニ限り輸出入ノ税ヲ免
 セラレン事ヲ上請ス本省ニ於テ将来一般ノ流
 弊タラン事ヲ恐レ許可ナカリシカ再申ノ旨ニ
 依リ終ニ請フ所ノ如ク允許アリ各税関工モ指
 令アリシト云蓋キンドル御雇ハ貨幣鑄造ノ一
 途ナルニ寮中諸般ノ建築ヲモ同人ヲノ擔任セ
 シメラル、等條約外ノ職ヲモ奉シ其勞細少ナ
 ラザルヲ以特殊ノ命アリシナリ

第八條

等外附属等級廢止及改唱

當寮判任官ハ豫テ允許ヲ經官名ヲ廢シ一般出
 仕ト称シ月給ノ多寡ヲ以自ラ等級ノ區別有リ
 ト雖等外附属ニ至テハ諸官省ノ定制ト同シク
 等級ヲ用ヒシカ明治六年九月上申シテ判任官
 ノ例ニヨリ等級ヲ廢セリ且同年本省第四百四
 十四號ノ達書ニ據リ等外附属及附属氏ニ改唱
 シテ更ニ等外出仕ト称セリ
 附當寮従前附属トシテ唱フルハ等外附属ニ

非スシテ其職事ニ熟達シ一局中職工ノ小頭
トモ為ル可キノ人物ヲ撰ミ附屬ノ称ヲ與ハ
他ノ職工ト區別ス全ク職工ヲ鼓舞獎勵スル
ノ術タリト云

第九條

供試貨幣ノ試験分析

明治五年五月ヨリ六年八月三十日迄寮中ニ於
テ日々鑄造貨幣ノ内毎年試験ノ用ニ供スルカ
為ノ定規ニ據リ若干個ヲ撰取シ封緘シ置タル
貨幣ヲ六年九月四日前大藏省三等出仕陸奥宗
光大藏省事務惣裁ノ代理トナリ来阪シテ開緘
シ本寮分析方ニ命シテ之ヲ試験分析セシメ又
別ニ若干片ヲ首長キンドルニ托シテ之ヲ英國
竜動大藏省長官ニ送致シ彼地造幣寮分析方ニ

命シテ之ヲ試驗ヤシム本年ニ至リ回報アリ今
之ヲ並列掲載表第六号シテ品位ノ純良正確ヲ證
スト云

第十條

溝渠

當寮所轄中西北ノ地最卑下ナルヲ以迄傍市街
ノ悪水注入シ霖雨ノ候ニ及フヤ水潦汎濫床下
ニ溜滞シ甚シキハ水床上ニ至ルモノアリ故ニ
従前此分析所西隅ニ一池ヲ鑿テ溢水ヲ停蓄ス
ルノ設アリシカ此池タル他ニ流通ノ道ナク死水
漸々腐敗シ炎熱ノ日ニ至リ悪氣蒸發自ラ人ノ
健康ヲ害シ職人居住ノ地最甚シトス加フルニ
硫酸ヲ用ユル日ニ多キヲ以テ悪水ヲ導キ下流

吐出し其害ヲ防カサル可ラス因テ鑿溝ノ
 事ヲ地方官ニ令セラレントテ請フ本省令シテ
 一切當察ニテ擔當奏功ヲ期マシム然リ而シテ
 土功稍大ニ經費亦多キヲ以延遷シ六年五月ニ
 至リ更ニ上申シテ前日ノ結構ヲ減縮シ旧存溝渠
 ノ湮塞ヲ疏通シ其不足ヲ補鑿シ銅錢局建築ノ
 剩石等ヲ用ヒ溝渠ヲ作レリ

第十條

出納寮出張所地面

出張出納寮ノ地タル當寮区域内ニアリ這般地
 券發行ノ際彼我兩寮ノ地域ヲ區別セント欲セ
 ハ區中ニ區ヲ畫セサルヲ得ス此專地券上行ヒ
 難キヲ以出納本寮ニ照會シ一切當寮ノ區域々
 ル地券ヲ受ケ其地内ノ一區ヲ出納寮出張所ニ
 轉貸スルモノト爲シ區入費課出ノ日ニ至ラハ
 地ノ廣狹ニ配シ彼我兩寮ヨリ償却ス可キ專ニ
 決議セリ然リト雖今ニ至ルマテ猶地方官ヨリ

ルヲ以説諭拒絶シ交換ヲ許サス然而其情實ヲ
 搜索スルニ布達ノ趣旨ヲ了解セサル等必竟本
 人不注意ヨリ出ルト雖亦憫ム可キ有ルヲ以其
 事情明詳疑フ可キ無キハ之ヲ交換スル如何ノ
 旨ヲ記録寮ニ協議ス同寮即チ之ヲ本省ニ具狀
 シ決ヲ乞フ本省令シテ當寮所見ノ如ク所置セ
 シム因テ爾來其方法ニ據リ交換スル所若干ア
 リ第十三號表參看ス可シ

第拾三條

貿易銀

貿易壹圓銀ハ創業ノ際ヨリ鑄造セシカ至申三
 月本省命アリ當分ノ内定位銀貨ノミヲ鑄造シ
 壹圓銀鑄造ヲ輟メシム蓋シ本位金貨ニ抵抗障
 礙アルヲ恐ル、カ故ナリ爾來銀貨ノ鑄造ハ補
 助銀貨四種ニ限リシカ客年以來金地金ノ輸入
 漸次減少スルヲ以首長キンドル屢建言シテ更
 ニ貿易銀ヲ鑄造シ墨斯哥ドルヲ壓制セシ
 トノ議アリ抑貿易銀ノ用タル專ラ各港貿易便

利、爲ノ内外人民ノ望ニ應シ鑄造スル所ニシテ
 方今漸次海外ニ輸出シ支那各阜頭ニ於ニモ流
 通稍闊ケ英領新嘉坡及支那廣東ノ如キハア
 リカ新貿易銀日本貿易銀ハ墨斯哥ドルラルト
 同シク普通貨幣タルベキノ布告アリシト然ハ
 獨リ我各港ニ行ハル、而已ナラズ海外普通
 貨幣トナリ貿易銀鑄造ノ本意ニ協ヘルヲ以本
 省之ヲ正院ニ具狀シ併セテ圖面ヲ改メ洋字ヲ
 刻入シ再ヒ貿易銀ヲ鑄造セン事ヲ乞ヒ本年三
 月太政官第三拾四號ヲ以公布アリ現今鑄造ス

ル所ノ壹圓銀是ナリ鑄造高ハ第四號表ヲ見ル可シ然ルニ四月
 ニ至リ本省更ニ議アリ從前貿易銀東洋地方ニ
 行ハル、ト雖ホ十分ノ流通ヲ得ス故ニ從前
 一枚ノ量四百拾六匁ノ上四匁ヲ加エ四百貳拾
 匁即チ亞墨利加貿易銀ト同量ノモノヲ鑄造シ
 大ニ東洋地方ノ流通ヲ盛ナラシメント因テ之
 ヲ當寮ニ下問ス當寮別ニ異見ナキヲ以首長キ
 ンドルニ合議シ新貿易銀蠟製見本ヲ呈シ併セ
 テ鑄造料ヲ減シ百分ノ壹、五トナサン事ヲ上申
 ス本省即チ正院ニ具狀シ許可アリ七月ニ至リ

更ニ見本ヲ鑄造シテ本省ニ呈スルノ際キント
 ルヨリ量目公差一枚上従前一ケレイン半ナリ
 シヲ近來工業精熟秤量益正シキヲ以新鑄ノ買
 易銀ハ公差一枚上一ケレイントナサン事ヲ建
 言セリ此事タル方今議中ニ係リ未タ公布ナシ
 ト云

附本年二月キンドルヨリ金貨幣圖面改正ノ
 事ヲ建議シ五圓金貨ノ新模本ヲ呈ス蓋シ壬
 申九月同人在京中嘗テ議スル所アリト云然
 レモ現今行ハルノ所ノ金貨改正ヲ要ス可キ

ノ弊害無ク加フルニ屢貨幣ヲ變換スル人民
 ノ信否ニ関スルヲ以本省之ヲ許サスト云

新刊
州
刊
刊
刊

第拾五條

金含銀

内外人民ヨリ輸入スル銀地金中品位ハ貨幣鑄造ニ適當スルモノニシテ而銀塊中偶金ヲ含ムルモノアリ今ヤ歐米諸州銀貨幣量目一ポント中六^{十分ニ付壹六}以上ノ金ヲ含有セル者ナシ然ルヲ當察六^{十分ニ付壹六}以上ノ金アル銀貨ヲ造ラハ外國人ノ嗤笑ヲ招ク可ク且六^{十分ニ付壹六}以上ノ金ヲ採取レハ到底政府ノ利益タルヲ以テ既ニ首長キンド^ル第二周年報告中其旨趣ヲ略陳ス故ニ政府地

新刊

大蔵省

金ノ如キハ便チ其事ニ從フト至人民地金ノ如
キハ一困難無キ能ハス如何トナレハ其地金々
ル金ヲ含ソル而也ニシテ其品位ハ貨幣適當ク
ルヲ以通常不適當ノ例ヲ以テ之ヲ輸入人ニ返
却スハカラス然レモ之ヲ收入シテ其債貨幣ヲ
鑄造スレハ上文ノ如ク銀貨中金ヲ含者スルノ
憂アリ於是衆論ヲ竭シ左ノ一法ヲ創制セリ若
人民地金中一ポントニ付六分以上ノ金有ル者ハ
之ヲ当人ニ報シ其情願ニ任セ若返却ヲ請フ者
ハ定規ノ手数料ヲ納メシメ地金ヲ還付シ其債鑄

造ヲ願フ者ハ通常ノ如クテンドルヲ製シ期日
ニ至リ貨幣ヲ渡シ其地金ハ當寮ヨリ直ニ北分
析所ニ附托シ金銀ヲ分析精製セシメ後貨幣
ト爲ストナレリ
右方法施行ニ方リ万一金含銀一時多量ニ輸入
アラハ代リ貨幣ノ料給セサルヲ有ルモ測リ難
キヲ以若其時ニ至ラハ大阪國債寮ニテ取扱フ
所ノ政府銀地金ヲ以一時換用セシメ上申ス
本省之ヲ許可シ國債寮ニ下命アリシ然レモ銀
地金ノ輸入少ク金含銀ノ如キモ寥々タルヲ以

貨幣

大蔵省

テ本省中當察ノ事務ヲ擔當スルノ人ヲ余セラ
レンコトヲ請フ先是記録寮ニテハ卿輔ヨリ當察
ヘノ指令往復等ノ事ヲ管掌スルヲ以テ乃テ同
寮ニ命アリ當察稟請上申スルノ諸件ヨリシテ
一切當察ヘ關係スルノ事務ヲ整理セシメ判任
官二人專任シテ其事ヲ擔當セリ爾來事情梗塞
諸務滯滞等ノ患ナキヲ得タリシカ本年三月更
ニ上申ノ旨アリ記録權頭本官ヲ以テ幣寮御用
懸ヲ命セラレ同寮判任官二人當察出仕ニ兼補
セラル蓋益業務ノ整齊周備ナランコトヲ要スル

カ為ナリ五月ニ至リ本省命アリ國債寮ヲメ本
寮ノ事務ヲ擔保セシメ記録權頭ノ御用撰ヲ免
セラレ當察出仕兼補ノ判任官二人ハ國債寮ニ
轉任シ兼補如故因テ同寮中造幣事務ノ一課ヲ
設ラレタリ爾來當察ノ事務ヲ擔當調査スル記
録寮ト異ナル事無ク敢テ滯滞ノ患ナシト雖當
寮懸隔ノ地ニ在ルヲ以テ自ラ事情迂遠ニ涉リ動
モスレハ隔靴ノ念無キ能ハス因テ府縣出張所
ノ如ク當察官員ノ内一兩名ヲ派出シ時々交代
シテ本省及各寮ノ事務体裁ヲ慣習セシメ併ヒ

テ兩地往復ノ文書ヲ緝綴セシノニ一ヲ乞ヒ六月許可ヲ得タリ

第拾七條

煤氣燈

當寮中石炭瓦斯製造局ハ創業ノ際建設アリシニ點燈ノ數増加スルニ從ヒ瓦斯儲蓄所ヲ増シテ二個トセシカ輓近銅錢局等建築アルニ由リ益熒燈スル多キヲ以吏ニ又一個ノ儲蓄所ヲ増築シ且此時瓦斯メーターヲモ裝置シ其容積ヲ測量スルノ設ケアリ方今未タ落成ニ至ラザルナリ

憲法

州

補

省

第拾八條

毎年閉察

當察毎年ノ休業豫メ定期無キヲ以之ヲ數十日
 前ニ公布アルモ猶屢物議ヲ起セリ故ニ首長キ
 ンドル第二周年報中之ヲ論述ス其旨理アルヲ
 以更ニ同人ト協議シ毎年休業ノ期ヲ定メ九月
 一日ヨリ十一月十五日迄地金收入ヲ止メシ
 ヲ陳請ス本省之ヲ正院ニ具狀シ本年三月太政
 官第拾六號ヲ以新賃條例第一條へ追加ノ布
 告アリタリ但休業トハ内外人民ノ地金ヲ收入

考課狀

大

議

省

セザルノ時間ニシテ當寮ニテハ執業依然休業
 前收入ノ地金ヲ鑄造シ畢大抵九月中ルノ後政
 府別ニ臨時副急ノ鑄造ナケレハ業ヲ休ミ諸局
 ヲ掃除シ器械破損アレハ之ヲ修繕シ若或ハ改
 造ヲ要スル等ノ事モ此時間中之ヲ施為シ滿寮
 ノ官員ヘモ休暇ヲ賜フノ例トス

附客年九月十五日ヨリ十一月十五日ニ至リ
 休業地金ヲ收入セサル云々ハ第二号考課状
 中記載セリ然ルニ首長キンドル来港渡航ノ
 故ヲ以更ニ上申ノ旨アリ同年十月太政官第

三百三拾四号ヲ以十一月三十日迄地金收入
 セサルノ布告アリタリ



新編
新編
新編

新編
新編
新編

第九條

計簿報告表改正

六年十月正院令ヲ本省ニ下シ本寮出納勘定書
 雛形ノ如ク製調差出可キトノ事ナリシカ當寮
 ニテハ貨幣地金勘定等一般西式ヲ用ヒ其為ノ
 西洋人ヲモ雇入レ月々報告表ヲモ上呈シ来レ
 ルニ今又和様舊式ニ湖リ雛形ノ如クナシハ
 唯僅ニ書体ヲ變スル而已ニテ確乎タル便益モ
 ナク反テ一切ノ簿冊ニ抵觸スルヲ以更ニ人負
 ヲ増加シ二様ノ計簿ヲ製セサルヲ得ス徒ニ冗

新編

新編

費ヲ増スノ理ナルヲ以從前ノ報告表ヲ用ヒシ
 事ヲ上陳ス同年十二月廿五日正院ヨリ造幣寮
 勘定書西式ノ分一通譯文ヲ添エ差出ス可キト
 ノ令本省ニ下レリ尔後下命ノ旨ニ任セ同月ヨ
 リ正院本省各一通ツ、諸計表ヲ上呈シ從前横
 文ノマ、差出セシ計表ニ悉ク翻譯ノ我文字ニ
 改ノ但數字而已ハ西字ヲ使用セリ
 本年三月從前當寮ヨリ呈シ來レル所ノ計表中
 統計ノ都合アリトノ事ニテ爾後報告表ノ体裁
 雛形ノ如ク調製ス可キトノ事ナリシカ就中一

二當寮ノ意見ヲ上申スルモノアリ即今用フル
 所ノ計表類ハ此時ヨリ定マレリ且同時辛未年
 己降六年ニ至ル年計表ヲ差出ス可キノ令アリ
 則之ヲ調製シテ進呈セリ

第二十條

常額金

當寮定額金ノ件ハ第一第二考課狀ニ記載セリ
本年ニ至リ一々年ノ常額金四拾六万貳千百拾
五圓ト定メ官給ヨリ一切ノ諸經費辦給ス可キ
ノ令正院ヨリ下レルヲ以本省之ヲ傳達ス故ニ
臨時建築ノ費用新調機械ノ代價等従前別途ニ
附與アリシモ本年ヨリハ常額内ヲ以辦スル事
トス

第二十一條

分析所硫酸局ノ諸經費計筭

當寮所轄ノ分析所硫酸局ニ局ハ創建ノ始メヨ
リ本寮ト區別シ其得ル所ノ利益ヲ較計シ官給
其他諸般ノ費用ヲ引去リ残ル所ノ全益ハ之ヲ
準備金ニ納付スルノ順序ニシテ分析所ノ如キ
ハ既ニ其事ニ從フト雖硫酸局ニ至リ創業未タ
日アラズ加フルニ現今販賣ノ硫酸僅少ナルヲ
以製造ノ支用ヲ償フ能ハス依テ本年一月上申
ノ旨アリ資本金貳万五千圓下附ナリシカ當寮

常額金ヲ定メラル、ヲ以ニ局費用ノ如キモ悉
皆常額ヨリ辨給シ本寮計算簿冊ニ合一シ收入
ノ金ハ毎月之ヲ納付スベキノ指令アリ依テ本
年一月以後ノ計簿ヲ改正シ收入ノ金ハ之ヲ大
阪準備金ニ納付セリ

第二十二條

銅貨テンドル變革

銅貨幣鑄造ノテンドルハ金銀貨幣ノ式ト同ク
調製シテ之ヲ在阪國債寮ニ交付セシカ本年一
月ニ至リ首長キンドル工事上都合アリテンド
ルヲ調製ス可ラストノ論ヲ起セリ権頭之ヲ拒
ムト雖聞カス因テ之ヲ本省ニ具狀シ二月權頭
上京スルヤ亦之ヲ上申シ遂ニ雙方熟議シテ方
今用フル所ノ證書「セルチヒケルト」ヲ調製セリ

新編
通志

州
三
省

第二十三條

贋貨幣

本年四月大坂府下ニテ贋造銀貨拾錢散布ニ間
欺カル、者アリト因テ同府ヨリ報知ノ旨モア
リ猶本省ヨリモ嚴密搜索ス可キノ指令アルヲ
以密ニ探索ニ從事スト雖未タ其蹤跡ヲ得ル能
ハス其物タル鉛質銀鍍製作亦粗惡一瞥以テ其
贋タルヲ知ル或ハ支那奸人ノ所為ナラント云

新編

通志

考
論
水

加
減
律

第廿四條

舊銅錢分析費

本年五月本省ヨリ各種舊銅貨ノ分析費用ヲ下
問アリ即チ銅錢局溶解兼試験方ゴレンドニ
命シ各種ヲ分析シテ以其費用ヲ定メシム然ル
ニ種類許多品位雜駁一定セサルヲ以未タ其功
ヲ奏セスト云

考
論
水

加
減
律

シ本年又同人ニ命シテ試験セシメ三月ニ至リ
 鳩功ス乃チ本年試験スル所ノ品位ヲ以基本ト
 シ客年ノ試験ヲモ参考シ新ニ各舊貨幣價格表
 ヲ製シ其所分ノ方法ヲ具收進呈ス七月ニ至リ
 正院許可ノ命アリ方今價格表上木等ノ事ニ從
 フト聞ク全國ヘノ發令迄キニ有ルヘシ

第二十六條

聖上御寫真

聖上御寫真各府縣ヘ下賜シ各廳ニ於テ士民ヲ
 ノ禮拜ヲ許ルスヲ以當寮ヘモ下賜ノ一ヲ願請
 ス本年六月下賜アリ今之ヲ泉布觀中清淨ノ地
 位ニ奉掲ス

新編
大藏
卷之

第二十七條

鑄造貨幣ノ種類

方今專ラ鑄造スル所ノ貨幣金ハ五圓ヲ主トシ
間或ハ貳圓壹圓ヲ鑄造シ貳拾圓拾圓ノ如キハ
絶テ鑄造スル事ナシ五圓ハ大小ノ中ヲ得最モ
流用ニ便ナルヲ以也且壬申冬金貨幣寸法改正
ノ公布アリシヨリ五圓金ハ即時改正ノ寸法ニ
據リ鑄造スト雖壹圓金ハ本年七月初テ新形ヲ
鑄造シ其他ノ金貨ハ猶舊ニ依レリト云
銀貨中貿易壹圓銀ハ人民ノ為ニ鑄造シ補助

考
大藏

銀貨ハ本年一月指令ノ旨ニヨリ拾錢五錢ノ二種ヲ限リテ鑄造シ其間極印ノ都合ニヨリ器械虚設ノ損失無キカ為ノ貳拾錢銀ヲ鑄造スルナリ而テ日々鑄造ノ高ハ一周間毎之ヲ本省ニ報告ス亦一月ノ指令ニヨレリ

銅貨ハ壹錢半錢ノ二種最モ世用ニ便ナルヲ以テトシテ此二種ヲ鑄造セシカ本年三月本省令スラク銅貨ハ價位低少ナルカ故日々鑄造ノ圓數僅少殊ニ發行未タ久シカラス自然不融通ナレハ當分鑄造高ヲ二分シ一分ハ貳錢ヲ鑄造シ

一分ハ他ノ三種ヲ鑄造スヘシト乃チキントルニ合議シ其事ニ從フト雖元來貳錢ノ極印別ニ多數ノ豫備ナキヲ以一時指令ノ如クスル能ハス漸ク以之ヲ施行セントス其鑄造高ノ如キハ之ヲ今春ニ比シ稍其數ヲ増スト云

第廿八條

大阪東洋銀行家屋

大阪在留東洋銀行ノ家屋ハ政府ニテ建設シテ
銀行ニ貸與シ若干ノ家稅ヲ收メシメタリシカ
本年ニ至リ神戸銀行ト合併シ大阪ノ家屋ヲ返
還スルノ報知スルヲ以期ニ先チ家屋ノ所分ヲ
本省ニ乞フ姑ク舊ニ依リ保存ス可キノ令アリ
然リト雖銀行未タ家屋ヲ返還セサルナリ

和言水

大藏

第廿九條

當寮畧圖

當寮創建以來漸次區域ヲ廣メ建築ヲ増シ方今
ニ至リ頗ル壯大ヲ極ム因テ今畧圖ヲ製シ以テ
他日ノ參考ニ供スト云

寺果

大藏

ニ至リ一周年間各局ニテ工事ヲ經タル金銀ノ総量及欠減ノ多寡ヲ表出ス

貨幣鑄造高表 第四号

同上一周年間及創業ヨリ鑄造スル所ノ金銀銅貨幣ノ総計及公差等ヲ表出ス

貨幣發行高及撰除高表 第五号

同上鑄造高ヨリ政府及内外人民ニ渡セル貨幣ノ総計并毎年試験用ノ為メ撰除キタル高本寮有高等ヲ表出ス

金銀貨幣品位試験表 第六号

第九條ニ詳ナリ

金銀有高表 第七号

明治七年七月三十一日當寮現在有ル所ノ金銀銅ノ総計及小譯ヲ表出ス

損益計筭表 第八号

創業ヨリ明治七年七月三十一日ニ至リ金銀地金鑄造上ノ損益ヲ明瞭ニス

收入金総計表 第九号

當寮創業以來貨幣鑄造上ノ純益及北分析所硫酸局收入金寮中製作品代收等ヲ表

出ス

經費拵計表 第拾号

當寮其他各局築造器械代等資本ニ屬ス可

キ經費其他一般ノ消費ヲ表出ス

分析所地金精製高表 第拾壹号

分析所ニ於テ政府人民ノ為メ精製セシ所

ノ金銀雜物ノ拵計ヲ表出ス

硫酸製造高表 第拾貳号

硫酸局ニ於テ製造スル所ノ硫酸拵計及賣

却高ヲ表出ス

證券表 第拾三号

當寮發行證券交換濟燒却高及本年七月廿

一日迄交換高ヲ掲載ス

患者年表 第拾四号

明治六年八月一日ヨリ同七年七月廿一日

ニ至リ一周年間官員職工患者ノ拵計ヲ掲

載ス

大藏卿

大藏卿

造幣權頭遠藤謹助

明治七年十二月 大藏卿大隈重信

